

小学校第2学年4組 道徳 学習指導案

期 日 平成28年2月19日（金）第2校時
場 所 山鹿市立山鹿小学校 2年4組教室
指導者 教諭 林田 美貴

1 主題名

「やるべきことをしっかりと」 希望と勇気、努力と強い意志

2 資料名

「光る えんがわ」（道徳教育用郷土資料「くまもとのこころ」）

3 主題について

(1) ねらいとする内容項目（価値）について

本主題は、自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させることに関する内容項目である。中学年の「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと」、高学年の「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」に発展する。

児童生徒が以前に比べ「つらいことや苦しいことがあるとくじけてしまう」傾向が強くなってきていることについては、これまでも各種報告の中で指摘されてきている。熊本県教育委員会でも、平成27年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果を受け、本県の児童生徒は「ものごとを最後までやり遂げてうれしい」と思う心に課題が見られ、教育環境の整備を含め、改善の必要があることを示唆している。

この時期の児童の「やるべきこと」とは、日頃の勉強や係活動、当番活動、家庭においてはお手伝いや習い事等が考えられる。発達段階を考慮すると、家族や教師から言われて行うことが多いことが考えられるが、その中でやり遂げたときの喜びや充実感を味わわせるためには、「なぜやるのか」「何のためにやるのか」といった目的や意義を自覚させることが必要であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

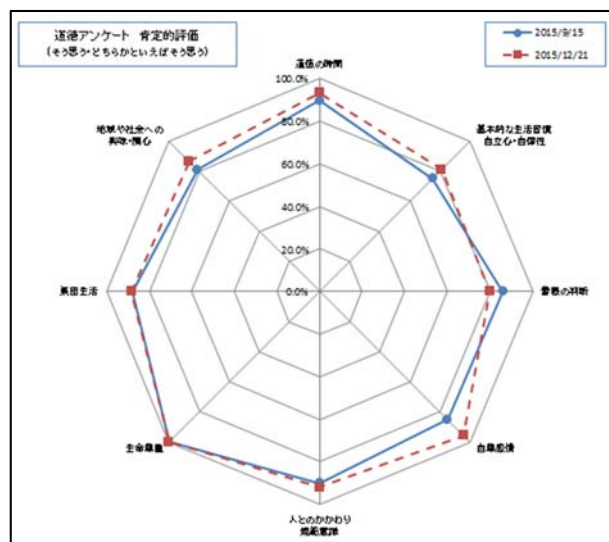
本学級は、30名。9月及び12月に行った児童の道徳性に関わる調査結果は、下図の通りである。

これまでの「関係形成を育む道徳の時間の展開」の実践から、多くの内容項目に関わる児童の受け止め方に伸びが感じられる。特に「自尊感情」や「人とかかわり、規範意識」、「地域や社会への興味関心」の部分での向上が見られる。道徳の時間についても、ほとんどの児童が「好き」と回答しており、他のアンケート結果では、「話合いで、友だちの考えと自分の考えを比べて聞いた後、はっとしたり、なるほどと思ったりするところがある」、「グループでの話合い活動で自らの考えが深まる」という項目において、伸びが見られた。

「基本的な生活習慣」「自立心、自律性」については伸びが見られるものの、他の項目と比較すると、本学級の課題であると捉えることができる。

さらに、「善悪の判断」については、若干下降しており、さらに重点的に指導の工夫を講じていかなければならない課題として捉えている。

本時の主題に関する授業を行うに際して、児童に対して意識調査を実施した。（実数N＝30人）



	質問項目	ある	ない
①	あなたは、自分で決めて、がんばって続けていることがありますか。	17人	13人
②	今までに、がんばって続けて「よかった」「うれしかった」と思うことがありますか。	23人	7人
③	自分で「やろう」と思ったことで「やめてしまったこと」「あきらめてしまったこと」はありますか。	12人	18人
④	自分がしなければならないことで、おうちの人や学校の先生から「○○○しなさい」と言われることがありますか。	16人	14人

学級の6割弱の児童が「自分で決めて、がんばっていることがある」と回答した。内容については、習い事に関する記述が多く、次いでお手伝いと答えている。がんばって続けたことに対する喜びについては、多くの児童が実感している。喜びの要因としては、他者から賞賛されたことをあげる児童が多く、自らの成長を実感（「できた」「上手になった」等）したことに関する記述は少数であった。

自分で決めたことを「やめた」「あきらめた」経験のある児童が4割いるが、その理由としては「上手にできなかった」「面倒くさくなった」「きつくなった」といった記述がほとんどであった。物事を継続するうえで出会う困難や失敗から逃れようとする傾向は本学級児童にも見られ、個に応じた指導が必要となってくる。

さらに、自分の仕事についても、他者から促されて行うという児童が半数を超えている。記述内容としては、「宿題」「当番活動」「お手伝い」が多かった。児童の意識としては、「やるべき仕事」は他者から促されて行っていることが多く、行うことの意義について考えさせていく必要がある。

(3) 資料について

本資料は、世界的に有名な医学者、北里柴三郎の10歳の頃の実話である。親戚に家に預けられることになった柴三郎が、おばさんから毎日縁側を拭くように言いつけられた。おばさんの妥協を許さないその徹底した指導のお陰で、自分から「縁側をもっと光るようにしたい」と考えるようになる。それ以来、進んで拭くようになり、縁側が光ってくる。自分の家に帰る日の朝、ぴかぴかに光った縁側をじっと見つめる柴三郎の姿があったという話である。その時の柴三郎の思いは、本時のねらいと深く関わっていて内面化を図る資料として適している。

(4) 指導に当たって

- 事前アンケートの結果より、「自分がやるべきこと」の範囲が広くなりすぎるのが予想されるため、「勉強や仕事」と限定し、身近な生活場面やその時の気持ちを振り返りやすくする。
- 北里柴三郎の出身地や功績については、分かりやすい地図や写真と合わせて導入時に説明を加えることで、児童の興味関心を高めていく。
- 発問を構成する中で、柴三郎の気持ちと合わせて叔母の考え等を問うことで、ねらいとする道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるよう工夫する。
- 「自分でやろう」と思う気持ちの大きさを図式化し、その時の自分自身や柴三郎の心の位置を示し、そのように考えた理由を明確にしなが意見述べられるようにする。
- ワークシートについては、児童の発達段階や実態を考慮し、書き込み欄の大きさや文字数を絞り込んだものを用意する。また、意見交流の中で触れた友だちの考えのよさを書き込む部分も設け、価値の再構築を図りやすいようにする。
- 児童の発達段階や実態等を考慮し、ワークシートと別に振り返りシートを用意することで、学習評価の一助とする。

【共同研究との関連】

【視点1】学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点2】学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点3】学びを支える 学びのUD化と 効果的なICTの活用
【視点1】 導入時に、自分がやるべき勉強や仕事に対する気持ちを振り返りながら、本時のねらいとする価値に関わるテーマを児童と共に設定し、課題解決型の授業展開を図る。また、児童同士の意見交流を行うにあたり、自分のやる気のレベルを図に示しながら理由を述べさせることで、より協働・協調的な学びへとつなげていく。	【視点2】 児童と共に設定したテーマに対して、展開後段に振り返りの場を設定することで、児童の価値に対する理解の再構築を促す。 また、低学年の発達段階を考慮し、児童の興味関心が高まるようなキーワードを示すことで、授業後の生活場面においても、そのキーワードを用いて振り返り、学習で考えたことを想起しやすいようにする。	【視点3】 資料提示に際しては、児童の興味関心を高めるためにDVDを視聴させる。 また、発問の精選を図り、児童が意見を考えたり交流したりする時間を十分確保する。

◇インクルーシブ教育の視点から

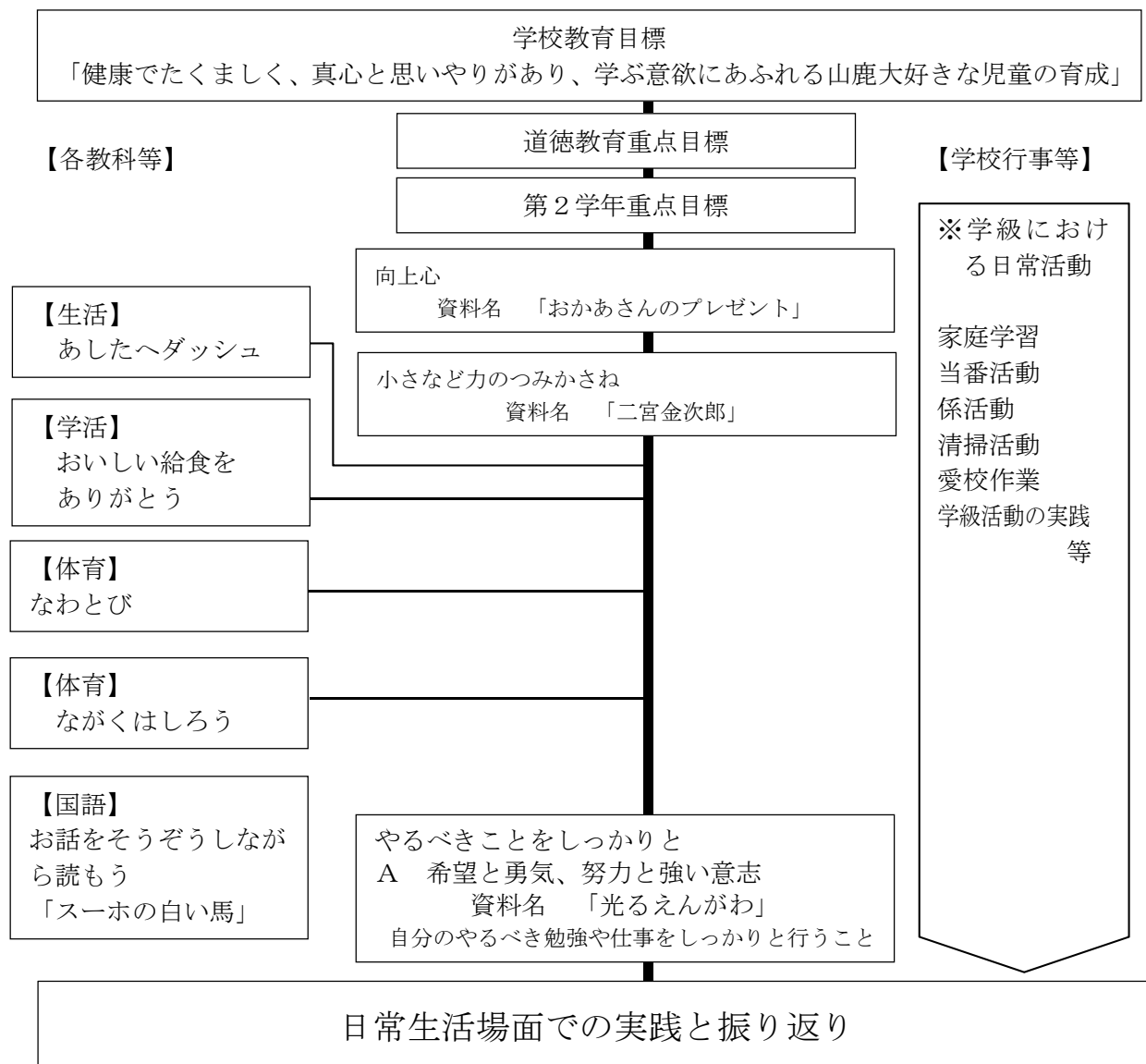
【基礎的環境整備】

- ・一人一人が学習に見通しが持てるように学習過程を提示する。
- ・事前にグループによる話合いが円滑に進むよう、班員の構成に配慮する。さらに、事前に学習リーダーを決めておき、グループによる話合いが円滑に進むよう工夫する。
- ・グループでの話合いを行う際は、板書と同様の小黒板やマグネットを使用しながら意見交流ができるようにする。

【合理的配慮】

(省略)

3 各教育活動との関連



5 本時の学習

(1) ねらい

北里柴三郎の幼少期の行動やその時の思いについて考える学習を通して、自分がやらなければならないことは、苦しいことがあっても頑張ってやり遂げようとする心情を養う。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 自分のやるべき勉強や仕事の取組に対する気持ち考える。	T:自分のやるべき勉強や仕事には、何がありますか。 C:宿題 当番活動 係活動 お手伝い 習い事 T:自分のやるべき勉強や仕事をする時の、みんなの気持ちは、この図のどの辺りかな。	○自分のやるべき勉強や仕事への意欲のレベル（「やる気スイッチ」）を示し、自らの気持ちがどの部分にあるのかを視覚的に捉えられるように工夫する。	やる気スイッチ
展開 35分	心の「やる気スイッチ」を入れるためにはどんな気持ちが必要だろう？			
	2 資料「光るえんがわ」を視聴し、話し合う。 (1) 柴三郎に縁側を拭くように言った時のお婆さんの気持ちを考える。 (2) 毎日縁側を拭く柴三郎の気持ちを話し合う。	T:お婆さんは、どんな気持ちで柴三郎に毎日縁側を拭くように言ったのだろう。 C:縁側が汚れていたから。 C:掃除の仕方を覚えてほしかったから。 C:きつい仕事を続けて、成長してほしかった。 T:柴三郎の縁側を拭こうとする「心のやる気スイッチ」は、どこで入ったのだろう。 ・もう一度がんばって拭いた時 ・縁側が光り始め、うれしくなった時 ・もっとびかびか光る縁側にしたいと心に決めた時	○資料はDVDを視聴させながら提示する。 ○お婆さんの視点から縁側拭きの意義を考えさせることで、日常生活場面での家族の思いと重ねて考えられるようにする。 ○縁側を拭いている時の柴三郎の気持ちを併せて聞くことで、やるべきことに対する本人と家族との気持ちの違いに気付かせたい。 ○「人から言われた時」「成果が現れた時」「自分で決めた時」の3つの視点から意見を考えさせる。 ○個人でワークシートに考えた後、グループで、板書と同様の小黒板に「心のやる気スイッチ」が入ったと思われる場所を出し合う。その際、それぞれが考えた理由を出しながら、意見交流する。 ○1～2グループに集約した意見を紹介させる。	大型テレビ DVD 挿絵 グループシート
	(3) 最後の日に光っている縁側をじっと眺める柴三郎の気持ちを考える。	T:自分の家に帰る日、びかびかに光っている縁側をながめながら、柴三郎はどんなことを考えていたでしょう。 C:縁側を拭き続けてよかった。 C:あきらめなくてよかった。 C:これだけびかびかにすることができた。 C:家の縁側も毎日拭いて、びかびかに光らせたい。	○柴三郎の気持ちになって意見を考えることができるよう、ワークシートを工夫する。 ○考えをまとめることが苦手な児童については、柴三郎の表情を示しながら個別に支援していく。 ○児童の意見については、「満足感」「充実感」「期待感」「その他」の視点で類型化して板書し、分かりやすい言葉で説明を加える。	ワークシート
まとめ 5分	3 学習したことを振り返り、「やる気スイッチ」を入れるために必要な気持ちを考える。	心の「やる気スイッチ」を入れるためにはどんな気持ちが必要だろう。 ・自分で「やる」と決めること。 ・上手いかわなくてもあきらめないという気持ちをもつこと。 ・「自分のため」「みんなのため」という気持ちをもつこと。 T:自分のやるべき勉強や仕事の中で、皆さんは何に「やる気スイッチ」を入れていこうと思いますか。	○最初に提示した問いを再度問うことで、価値の再構築化を図る。 ○導入時に示した自分のやるべき仕事や勉強とその時の気持ちを振り返ることで、今後の目標を焦点化して考えられるようにする。 《評価》:自分がやらなければならないことは、苦しいことがあっても頑張ってやり遂げようとする気持ちが表現されている。	
	4 GT（教頭）の体験談を聞く。	T:教頭先生はどんなことに心の「やる気スイッチ」を入れてこられたでしょう。	○話してもらう内容と時間については、事前に打ち合わせしておく。	

自分のやるべきべん強やしごと

光る えんがわ

宿題 ならいごと
そうじ 当番
お手伝い



- 百六十年ぐらい前に、阿蘇の小国で生まれた。
- 十五さいでいしやをめざす人があつまる学校のせいとなる。
- びょうきをなおすためのけんきゅうをし、
たくさんの人がくるしんでいたびょう気がおるようになった。

心の「やる気スイッチ」を入れるためにはどんな気もちが ひとつだろうか？

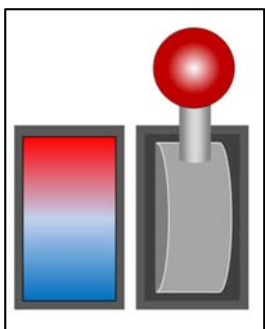
おばさんは、そうじのし方を教えました。
そして、毎日 えんがわをふくように言いつけました。



(ふいたのに。) と思いましたが、がんば
ってまた ふきました。

日がたつにつれて、
えんがわが だんだんと 光ってきました。
しばぶろうは、うれしくなりました。

もっと ぴかぴかに 光る えんがわにしよ
うと、心にきめました。



ぴかぴかに 光っている えんがわを、じっとながめて いました。

※「やった」

「よかった」

「もっとがんばろう」

